

地方都市における 地域まちづくり活動の意義に関する研究 —埼玉県本庄市「本庄まち NET」を対象として—

1X18D072-2 望月友貴*

様々な社会問題によって地方の衰退が問題視され、地域自治の担い手のあり方が問われる中で、地域まちづくり活動に参加することの意義とは何であろうか。本研究では、埼玉県本庄市において、会員の興味・関心のもとに幅広いテーマの活動を行ってきた本庄まち NET を対象に、その活動の実態を把握し、活動が醸成した会員の心情や活動と場所の関係性を考察した。結果として、会員の「地域や他者を客観的に認識する視座」が養われており、また活動が市民の地域資源を認識する契機となって、地形や自然環境に恵まれ、密度高く歴史的建造物が残る地域という認識が地域計画にも反映されていったことが明らかとなった。

Key Words : 本庄まち NET, 市民活動団体, 地域まちづくり活動, 埼玉県本庄市

1. 序論

1.1 背景と目的

少子高齢化や大都市への一極集中などの様々な社会問題による地方の衰退が問題視されている。基礎自治体による公共サービスの質の低下が懸念される状況の中で、指定管理者制度や PPP・PFI といった行政機能を民間が担う施策が多く進められてきた。また地域計画などを策定する過程において、ワークショップやまちづくり協議会などの住民参加型まちづくりが進められ様々な動きが起きている。一方でこれまで地域の公共サービスの一端を担ってきた町内会や自治会などの地縁型組織は加入率の低下などの弱体化が見られ、地域自治の担い手としてのあり方が問われている。このような地縁型組織以外にも、地域にはまちづくりとは直接的な関係を持たない、例えばスポーツや手芸といった趣味を共有する団体や社会福祉団体などの市民活動団体も多く存在している。住民それぞれが複数の団体やネットワークを持ちながら地域で生活しているわけであるが、数多く存在する市民活動団体の中から主体的に地域まちづくりと関わりを持ち、地域まちづくり活動へと参加する、またその参加を促す意義とは何であろうか。

これに示唆を与えると考えられるのは、長期にわたり地域と関わりを持ち、地域のことを考えてきた活動である。その中でも埼玉県本庄市で活動する本庄まち NET は、個人と個人の繋がりの中で会員の興味・関心のもとに活動を行い、その一環として歴史的建造物を保存・継承したりするなど、地域を形成

してきた団体である。そのためその活動の特徴と主体の意識を把握することで、地域まちづくり活動に住民が参加する意義に迫ることが期待される。

以上のような背景を踏まえ、本研究では埼玉県本庄市で活動を行う市民団体・本庄まち NET を対象として、これまでの活動の実態を把握するとともに、活動によって醸成された会員の心情や、活動と活動が起こった場所との関係性を考察することで、本庄まち NET の活動の意義を明らかにすることを目的とする。

1.2 既存研究の整理

本研究に関連する既存研究として、地域まちづくり活動組織の連携やその継続性に関する研究、埼玉県本庄市に関する研究がある。

(1) 地域まちづくり活動組織に関する研究

辻ら¹⁾は組織間、特に協働のプロセスにおける主体間の連携に着目して、山村²⁾や吉武ら³⁾はまちづくり活動組織やまちづくり活動としての市民イベントに着目して、活動の継続要件を明らかにしている。さらに引地ら⁴⁾や羽鳥ら⁵⁾は組織や活動の継続要因の中でも特に心理要因に着目し、地域や場所に対する愛着が継続性に影響していることを明らかにした。こうした心理要因に関する研究は環境心理学の分野でも行われているほか、まちづくり心理学⁶⁾といった概念も存在し、研究⁷⁾が進められている。

(2) 埼玉県本庄市に関する研究

早稲田大学建築史研究室を中心としたチームによる旧本庄商業銀行煉瓦倉庫に関する調査研究⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾が

*早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 景観・デザイン 佐々木葉研究室 学部4年

ある。また添田¹¹⁾は、地域の特徴を探る手法として、地形と土地利用による「構造の図」と、場所への意識を示した「意味の図」を複数の時代で重ねて可視化した多層化地図という手法を確立した。特に場所への意識については、本庄まち NET を対象に地域のエピソードを抽出するワークショップを行い、意識が集中する場所を明らかにした。また角皆¹²⁾は旧中山道とその周辺において、日常と非日常における街路と沿道空間の利用特性を明らかにしている。

本研究は、既存研究のように地域活性化や環境保全といった特定目的のために活動する団体・組織ではなく、会員の興味・関心によって活動が生まれてきた団体に着目する点に特徴がある。また、1 団体の活動を対象として、会員個人の心情や本業との繋がりなどにも着目することで、市民が住まう地域で活動を行うことの意義に迫る点に特徴がある。

1.3 研究の方法と構成

本研究では、文献調査と現地調査に併せて会員に対するインタビュー調査を行い、活動の実態を把握する。次に活動が起こった場所や既存研究で把握された場所への意識と活動との関係性を考察し、本庄まち NET の活動の意義を明らかにする。

2. 研究対象の概要

2.1 地域まちづくり活動組織の概観

これまでの日本で地域を形成する役割を担ってきたのは町内会や自治会といった地縁的組織である。また各地域の祭礼を継承する組織や商工会議所・青年会議所などが地縁的な繋がりの中で活動してきたほか、昨今ではスポーツや娯楽を共通テーマとした市民団体も多く存在している。

このような住民組織に対して、社会学の鍵概念であるコミュニティの観点から研究が進められてきており、奥田¹³⁾によるコミュニティモデルが代表的で

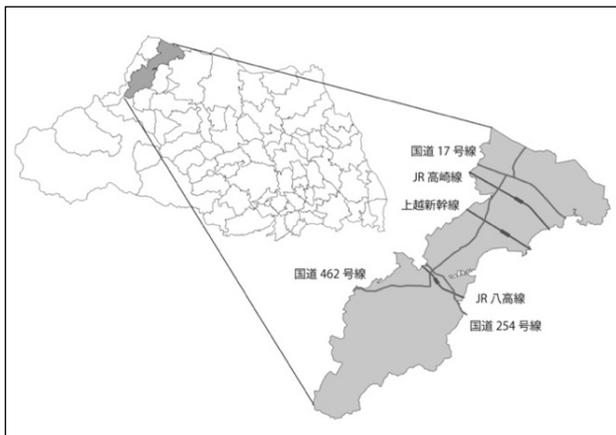


図-1 埼玉県本庄市の位置と交通

ある。また地域まちづくり活動組織に関する藪谷ら¹⁴⁾の研究では、対象領域と空間領域からその類型を整理している。

2.2 対象地域 本庄市の概要

本庄市は埼玉県の西北に位置する、人口 77,815 人¹⁵⁾の街で、JR 高崎線、JR 八高線、上越新幹線、関越自動車道、国道 254 号線、国道 462 号線などの主要道が縦横に走る交通の要衝である(図-1)。特に JR 本庄駅北側は関東平野の平坦な地形と本庄市南西部に広がる 500m 級の山間部の境となっており、段丘沿いに若泉公園が整備され、風光明媚な山並みが見渡せる場所として重要視されてきた。

室町時代には武蔵武士団の児玉党の子孫が本庄城を築いたことから城下町として栄えた。江戸時代には中山道が整備されたことで、城下町から宿場町へと姿を変え、本庄宿は中山道最大の宿場町となった。明治期の近代化以降は江戸時代から盛んだった養蚕を軸に、生繭市場が開かれたことで発展した。このような歴史的経緯と、周辺地域と異なり戦中の空襲を受けず街中の大規模開発が行われてこなかったことから、市街地には様々な年代の蔵や古い建物が残されており、保存活動も行われている。2006 年には旧本庄市と旧児玉町が合併し現在の本庄市となった。また児玉郡市(本庄市・美里町・神川町・上里町の一帯)は「本庄地方拠点都市地域」に指定され、本庄市はその中心的役割を担っている¹⁶⁾¹⁷⁾。

2.3 本庄まち NET の概要と位置付け

本庄まち NET は、2007 年から活動する市民活動団体であり、「本庄地域を拠点として、有志の市民一人一人がまちづくりへの思いと願い、自らの意思をもとに自主的に活動し、互いに交感・支援し合うなかで、地域内外の市民団体や専門家、行政等の方々と連携と協働を深め、自立性のある豊かな地域社会の実現に資すること」¹⁸⁾を目的に、市内外に住む 30 代～70 代の約 30 名が会員として活動している。

主な活動としては、月 1 回の例会(新型コロナウイルス感染症拡大のため、2021 年 12 月現在は不定期の開催)を基本的な活動としながら、6 つのプロジェクトチーム(以下、PT)が活動している(表-1)。活動資金は会費を主な財源としており、補助金は必要な時に申請する形でこれまでに 2 回の申請を行っている。会員の参加については、個人と個人の繋がりを重要視していることから広く募集を呼びかけるような活動は行っておらず、基本的に既存会員の紹介による参加となっている。そのため参加以前から会員同士の繋がりが存在する場合は多く、会社員や

と「PT活動」に分けられ、様々な活動が行われてきた(図-4)。これまでの活動の中でも継続的に行われてきた活動について、活動内容とインタビューで語られた心情を活動ごとに整理し、表-3に示す。

団体全体の活動である月例会やまち歩きは、会員間の交流を深める機会となり、同時に地域資源や文化を体感する機会になっている。PT活動では、地域資源の情報発信や、結果的に文化財や歴史的な建造物の改修・保存に繋がっている活動もあり、会員に限らず市民も地域資源を認識する契機となっている。

3.5 インタビューから得られた会員の心情

インタビュー調査では表-3のように、「ほとんど、休んだ時はなかったと思います。すごい楽しみにしてまし。」といったまち歩きや見学会に対する語りや、「まちNET持ってくとみんながよく出来てるねとかデザインがいいとかお褒めをいただくんだよね。」とPT活動を応援してもらった際の心情に関する語りがあった。また本庄まちNETの活動以外にも、団体を居場所と感じている会員の語りなどもあり、語りに関連するキーワードは表-4のように整理できる。このような語りからは、15年間の活動を通して個人と個人で繋がり信頼感を築いていった結果として、会の活動を居場所と感じている会員の存在や、

活動が地域学習の場となり地域への想いや愛着を醸成した会員の存在が明らかとなった。さらにまち歩きや見学会といった活動が会員間の共通体験となることで、他者との価値観の違いや共通点を認識したり、会員間の身近な共通のテーマとなることで、月例会での議論に発展したりしていることもわかった。

3.6 団体・活動運営の特徴

このような活動は役員を中心とした運営によって支えられており、大きく2つの特徴が挙げられる。1つ目は会員負担の軽減である。本庄まちNETでは



図-4 本庄まちNETの活動場所

表-3 本庄まちNETの活動実態と関連するインタビューでの語り

活動	活動内容	インタビューでの語りの例
月例会	本庄まちNETの中心的活動の1つであり、陸船車の模型の披露や本庄地元学類りの発表といったPT活動の近況報告や、会員個人の近況報告から派生した地域の社会問題をテーマとした議論などが自由に行われ、会員間の交流の機会となってきた活動である。	テレビとか情報で知ってるんだけど、自分1人じゃ踏み出せないような体験っていうのは、月例会でこうやったかもしれないですね。 この間みたいに1人がずっと喋るんじゃなくて、1人1回ぐらいは喋って帰ってもらおうっていう会にずっと月例会してるから。
まち歩き・見学会	まちづくり大学時代から継続的に行われてきた活動である。まち歩きでは本庄以外にも周辺の伊勢崎・行田・小川・長瀬へ行っているほか、見学会では本庄周辺にある工場やお店、さらに染物や豆腐づくりの体験などを行うことで、会員の共通体験を生む活動となっている。	ほとんど、休んだ時はなかったと思います。すごい楽しみにしてまし。 だから体験するっていうのはすごい大きな、共通体験、それからまちづくりについて議論するとかそういう方が進むんじゃないのって、机の上の空論じゃないけどさ、それだけじゃ進まないよね。
料理体験	総会やオープンハウスなどのイベント時には、五臓六腑の会PTを中心に会員自らで料理を作り、食文化を体感する活動を行っている。これまでに大豆や古代隊を使った料理や、郷土料理のつみこ、お花見弁当などを会員が考案したレシピで作られてきた。	食することっていうのか、Mさんもそうですけど、私達が一番大事な、食べ物によさというものを教えていただいたのは、大変あの自分でも今でも役に立っています。 新しい料理とかもレシピを、今まであるんじゃないかって、ねぎご飯とかいろいろ、減子に食べたことないような地元の料理を作ってくれるので、食です。
賀美橋ランプの復元	国登録の有形文化財である賀美橋の親柱に設置されていたランプの復元を目指す活動である。PT活動として、周辺地域のまち歩きや本庄地元学などよりなどでその歴史性の重要性などを認識し情報発信してきた。2016年には市が復元事業を実施し、ランプが復元された。	若泉公園のところ、橋のところがランプがあったじゃないですか。それを再生してっていうのがあるんですよね。それも最初の頃だったからとても印象深かったかも知れない。 まさかあんな風に賀美橋のランプの方が、元通りっていうかまあほぼ、作った当時の形で再現されるとは思ってたんですけど、わたし自身が一番びっくりしましたね。
児玉町旧配水塔のパン製作と改修	旧児玉町にある旧配水塔の利活用を考える活動として始まり、近隣のパン屋に提案して配水塔パンを製作し販売したりした。文化財としての保存も訴え、2013年度にはT代表が修復設計・監理の委託を受けて改修されている。	児玉のまち歩きしたときとかそういうときに、マロンのパンも美味しいよねって話してて、配水塔すぐ隣じゃんっていうんで、Kさんがもうデザインをして、ラフな絵を出してきた。
若泉市民農園の運営と農作業	特定農地貸付法を活用したNPO法人AZアグリ倶楽部が運営する市民農園で、都市農園事業計画PTがその事業化前から協力してきた。AZアグリ倶楽部が管理する敷地の野菜栽培に本庄まちNETの会員も家族ぐるみで参加したり、弁当を作って花見をするなどで関わってきている。	あの玉ねぎを植えたりとか、あれとかね、前は田植えとかもやった時があって、あんまり参加はしないんだけど、たまに参加してもいいっていう感じで、いつも来ないのに、何で来たんだとかそういうの全然ないんだよね。みんなね、くればウェルカムだったりとか。
陸船車の模型復元	世界最古の自転車機能を有するとされる足踏み式の四輪車の模型を復元する活動で、からくり門弥PTの活動で実施されてきた。これまでに様々な縮尺の模型が製作され、当時の走行速度を再現するために試行錯誤がされている。2021年に行われた東京オリンピック2020の聖火リレーで使用されるなどして、地域でも注目される活動となっている。	まちNET持ってくとみんながよく出来てるねとかデザインがいいとかお褒めをいただくんだよね。 娘なんかかねやっぱ、一緒に今回たまたまオリンピックの時には娘の映像が滞いでるの出たりとかやったと思って。
宮本蔵の街プロジェクト	旧中山道の酒問屋・小森商店の跡地活用のプロジェクトである。敷地内の3つの蔵はカフェや事務所として利活用され、残地を住宅地に分譲し、新設道路は市道に寄付された。また電柱を建物背後に設置する、道沿いに塀を作らないといった景観的配慮がなされた。2016年に日本建築家協会の「地域に根差す建築作品・活動」で表彰された。	
市役所との月1回のミーティング	行政や他団体との情報共有をする場として2012年から2020年まで続いた活動である。市役所MTGを通して市役所主催のワークショップの参加を依頼されており、総合振興計画の策定や市民活動交流センターの基本設計変更につながっている。	
本庄地元学だより	専門アドバイザーのM氏が著者となり、2012年から発行されてきた。「歴史や地理、文化、経済などを、総合的な視点にたち地域を研究する」として、まちづくりに活かすことを目指したものであり、各テーマでは他のPT活動の学術的な内容も扱っている。2017年には第1号～第36号までを再編集した冊子を発行した。	M先生のたくさん資料で、本庄市の忘れかけている懐かしい歴史を教えてください、それを全部読んでこなすことはできないんですけども、その資料っていうものが、先生の賜物だなと思うと、あのすごく大切に思っております。 TさんとMさんがアカデミックな部分やってくれたから、それがなければ、ただのお遊び団体だと思うよ。本当に。

表-4 活動から生まれた心情とインタビューでの語り

関連するキーワード	インタビューでの語りの例
楽しさ	結構みんなで作って食べるっていいことじゃないですか、楽しいじゃないですか。多分それで、食べ歩きもできるし。他のプロジェクトと一緒に、街歩きして、ついでに食べるものまで組み合わせてもらったりして、結構楽しかったですよ。 それとやっぱり、こんだけプロジェクトがあると、中で、やっぱりなんていうんですね、自分が中心になれるのもあるし、昔さんが中心になっていろいろなんか目を輝かせながらやってるっていうのを見てると、なんか参加して楽しいなっていう。だから、まちづくりのためじゃなくて、楽しいなっていう思いながら、今何か活動してるんかという形ですかね。そうじゃなければ多分10年も続かないと思います。
居場所	誰か見てくれてるっていうのが、だから本庄まちNETでもみんなが見てくれてるっていうのがあって、近くの人あんまり見てないというか、あんまり興味ないけども、身近なねそういう会の人たちが見てくれたりとかしてるっていうのはすごくメリットっていうか、原動力なのかなっていうのが。
地域・活動への想い	多かったですね。今考えると。だから最初の頃は結構みんな食べるのが好きな人ばっかりだったかもしれない。結構ありましたよね。今そういうのができなくなっちゃって残念ですね。コロナでね。 そこの突き当たりにお徳屋さんがあるんですよ。その人も、もうおじいさんっていうか、ご夫婦でやってるんで。あといつまでできるかっていう感じで。越まんじゅうで、結構美味しくて、おつきて、今時100円なんです。だからこたわって作ってるみたいで。無くならないで欲しいなって思いますけど。 で、今だから一番、考えてっていうか、こうなつたらいいなって希望のことはですね、買美橋の隣にある橋が、埼玉県内で一番最古の橋だと何か認定されたらいいんですけども、その橋がもう作った当初とだいぶかけ離れた姿になってるんで、買美橋があれだけが復元できたんだったら、隣の橋もまた昔のような形で復元、っていうかまあ、またそういうプロジェクトがきたら一番面白いんじゃないかなと思うんですけどね。
価値観の違い	なんだかんたんに言ってるべく出ようとして、自分と見方が違うっていうのがあれなかな。見方が違うのが利益なんかね。考えが違うんだとか、あってるんだとか、そんなことが、見方が違ったり、そんな風に見てるのかっていうのがやっぱり。 いろんな職業の人がいらっしやるじゃないですか、仕事を持っている人。だから私なんかが入った頃より結構いろんな人が新しい人が入ってこられたんで、そういう人たちの話を聞くのもまた違う感じで新鮮でいいですよ。全然知らないような分野の話さ何うのもの。

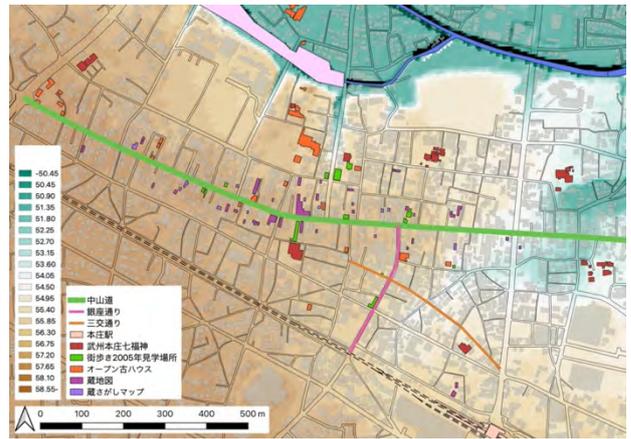


図-5 旧中山道周辺にある歴史的建造物などの地域資源

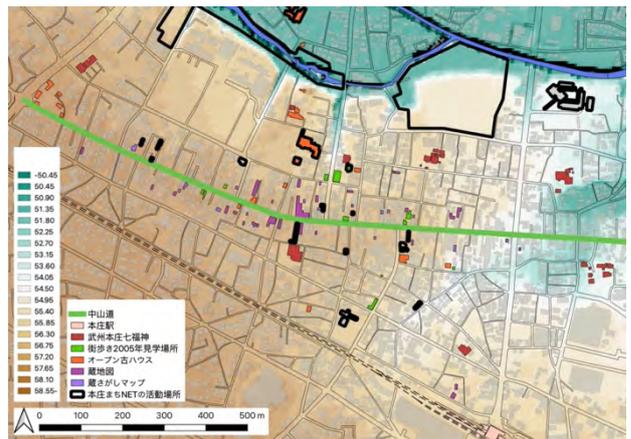


図-6 活動場所と地域資源の関係性

PT 活動の継続が強制されないように運営されており、興味・関心による活動が個人の生活環境に依りて行われてきた。また補助金を継続的に受け取っていないことや施設運営などの活動を行わないといった、会員を団体に縛らない環境を実現する運営が実施されている。2 つ目は共通体験を意識した活動を行なっている点である。まち歩きや見学会は、年代やバックグラウンドが多様な会員間の共通体験を生み出す活動となっており、この体験が共通テーマとなり、月例会で地域の社会問題について議論したり新たな PT 活動に結びついたりしている。

4. 地域資源と活動場所の関係

これまでに把握した活動の実態から、活動地域の空間特性との関係性について考察する。

4.1 対象地の空間特性の分析

過去に見学会を実施した場所、街中の古い建物や店舗・蔵を一般に公開したオープン古ハウス、本庄まち NET が協力し発行した蔵地図などから得た場所を重ねると図-5 のようになり、本庄市の旧市街地は古い建物や蔵が狭い範囲に密度高く残る地域であることがわかる。また段丘崖の若泉公園は市民に親しまれている空間であり、段丘上を通る旧中山道の南北には武州本庄七福神の参道が通るなど、歴史的に重要な地域であったことがわかる。11月に開催さ

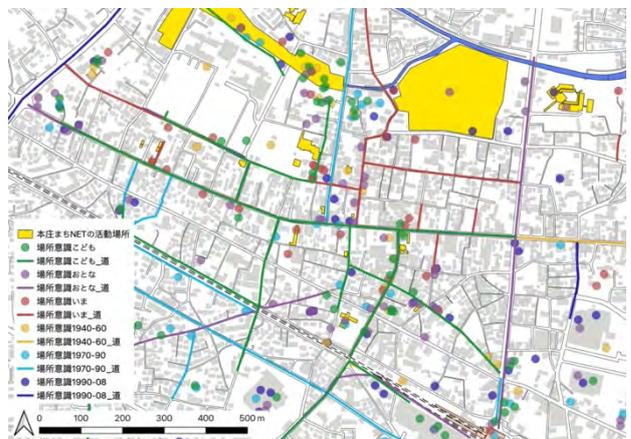


図-7 活動場所と 2008 年当時の場所意識の関係性

れる本庄祭りでは旧中山道を中心に 10 基の山車が巡行し、お囃子の見物客や露店で賑わうことが知られており、角皆¹²⁾は旧中山道や銀座通りに商工観光機能が集中することが明らかにした。また添田¹¹⁾で把握された場所への意識も、旧中山道・若泉公園・銀座通り・三交通り・本庄駅周辺に集中していた。

4.2 活動と場所の関係性

本庄まち NET の活動の起こった場所と 4.1 節で把握された地域資源を重ねると図-6 のようになり、密度高く残るお店や歴史的建築と関わる活動を行っ

てきたことが明らかとなった。さらに蔵地図や蔵さがしマップなどで街中に多く残る蔵の場所を紹介し、旧中山道沿いの特質を発信してきたことが分かった。

また添田の研究¹⁴⁾で把握された場所への意識を重ねると図-7のようになる。2008年時点の会員の場所意識が集中していた若泉公園や銀座通り、元歴史民俗資料館周辺では、まち歩きや見学会などの活動が行われてきた。このような活動によって会員の持っていたエピソードや記憶による興味・関心がさらに深まり、地域認識を深化させてきたと考えられる。

5. 結論

5.1 考察

本庄まち NET では、月例会やまち歩き、PT といった活動に参加し、学術的な地域学習や共通体験を重ねた会員が、「残したい」「復元したい」といった地域への想いや愛着を醸成し、新たな活動を連鎖的に行ってきたことが明らかとなった。さらに個人と個人の繋がりを重視した運営によって下支えされた活動は会員間の関係を深めることに繋がり、会員は他者との価値観の違いや共通点を認識していることが明らかとなった。以上のことから、本庄まち NET の活動が会員の「地域や他者を客観的に認識する視座」を養うという成果をもたらしたと考えられる。このような視座を有することは、地域まちづくり活動に参加する意義に繋がると考えられる。

また本庄まち NET の活動は、会員だけでなく他の住民も地域資源を認識する契機となり、市民の地域認識に影響を与えてきたと考えられる。特に市勢要覧²⁰⁾²¹⁾²²⁾や総合振興計画¹⁷⁾²³⁾においては、1999年・2009年時点であまり注目されていなかった地域の歴史や文化が、2018年のビジョンや計画の中心となっており、さらに活動で注目してきた地域資源も徐々に取り上げられている。以上のことから活動の成果として、狭い範囲に密度高く歴史的建造物が残り、地形や自然環境にも恵まれた地域であるという地域認識が共有され、深化させてきたことが考えられる。さらにこのような活動は、地域に対する想いを醸成させた会員によって、これからの地域を形成する「地域の物語の書き換え」^[1]の一部を起こしたと考えられる。地域まちづくり活動への参加を促すことは、将来の地域形成を担う住民を増やしていくことに繋がると考えられる。

5.2 今後の展望

地域まちづくり活動は各地で行われてきているが、その成果や事業性などを追求することで継続されな

い組織も多く存在すると考えられる。今後は継続性という観点から地域まちづくり活動を考察するとともに、まちづくりだけでなく地域自治との関係性にも着目することで、地域を形成する団体のあり方に迫ることができると考えられる。

補注

[1] 藤倉ら²⁴⁾は、自己了解を独自に解釈した地域の「物語」という概念を用いて、「将来も続くと漠然と考えられていた地域イメージ」である既往の物語を大きく修正するフェーズを「物語の書き換え」とし、「地域の物語」の再生サイクルを構成する要素として指摘している。

<参考文献>

- 1) 辻善彦・吉武哲信・出口近土：歴史的空間整備を契機とした市民活動の醸成プロセスに関する研究-油津地区・堀川運河再生事業と通り名社会実験の事例-，土木計画学研究・論文集，Vol.26，No.1，pp.245-252，2009。
- 2) 山村美保里：世代を超えて持続する市民活動の長期継続要因に関する研究-下諏訪町湖浄水を事例として-，土木学会論文集 D1 (景観・デザイン)，Vol.75，No.1，pp.1-11，2019。
- 3) 吉武哲信・瀬内月菜・寺町賢一：中心市街地活性化に関わる市民イベントの活動継続要件に関する研究 -日向市駅前広場で活動するイベント団体を対象として-，都市計画論文集，Vol.2，No.55，p.147-156，2020。
- 4) 引地博之・青木俊明：地域に対する愛着形成の心理過程の検討，景観・デザイン研究講演集，No.1，pp.232-235，2005。
- 5) 羽島剛史・片岡由香・尾崎誠：市民活動の持続可能性に関する心理要因分析，土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol.72 No.5，p.407-414，2016。
- 6) 城月雅大・園田美保・大槻知史・呉宜児：まちづくり心理学，名古屋外国語大学出版会，2018。
- 7) 城月雅大・大槻知史・石橋健一：住民の「場所感覚」が都市の居住評価に与える影響に関する実証研究-コンパクトシティ政策に対する「まちづくり心理学」の視点-，名古屋外国語大学現代国際学部 紀要，第 10 号，pp.113-126，2014。
- 8) 山田俊亮・新谷真人：旧本庄商業銀行煉瓦倉庫改修工事と構造設計について，建築史学，第 67 号，pp.196-211，2016。
- 9) 本橋仁・中谷礼仁：埼玉県本庄市における蔵の担倉庫の発生とその機能 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫に関する調査・研究報告，日本建築学会計画系論文集，第 82 巻，第 731 号，pp.209-216，2017。
- 10) 本橋仁・中谷礼仁：明治中期 煉瓦造建造物における煉瓦組積部と木造軸組部の関係 明治 29 年竣工・旧本庄商業銀行煉瓦倉庫を事例として，日本建築学会計画系論文集，第 82 巻，第 734 号，pp.1051-1057，2017。
- 11) 添田信行：地方都市における多層化地図を用いた場所性の分析に関する研究-埼玉県本庄市を対象にして-，早稲田大学修士論文，2009。
- 12) 角皆貴紀：非日常の街路利用に関する研究-埼玉県本庄市・中山道の祭礼を対象として-，早稲田大学卒業論文，2009。
- 13) 奥田道大：都市コミュニティの理論，東京大学出版会，1983。
- 14) 藪谷祐介「まちづくり市民活動団体の人材マネジメントに関する組織論的研究」札幌市立大学博士論文，2019。
- 15) 「本庄市の人口」本庄市 HP <https://www.city.honjo.lg.jp/shiseijoho/shinoshokai/11466.html> (2021.11.12)。
- 16) 「本庄市都市計画マスタープラン(平成 25 年)」本庄市。
- 17) 「本庄市総合振興計画 基本構想・前期基本計画(平成 30 年度～令和 9 年度)」本庄市。
- 18) 「本庄まち NET 会則」本庄まち NET。
- 19) 増田未来望：本庄地元学だより，本庄まち NET，2017。
- 20) 「本庄市勢要覧 1999」本庄市，1999。
- 21) 「本庄市勢要覧 2009」本庄市，2009。
- 22) 「本庄市勢要覧 2018」本庄市，2018。
- 23) 「本庄市総合振興計画(平成 20 年度～平成 29 年度)」本庄市。
- 24) 藤倉英世・羽貝正美・西研・山田圭二郎・薩田英男・鹿野正樹・中村良夫：「地域の物語」の再生を巡る自治の諸相 1960 年代以降の日・独・仏における公共圏の空間、風景、ローカル・ガバナンスの変遷とその構造比較，公共経営研究ユニット，2019。